

測法と思われた。

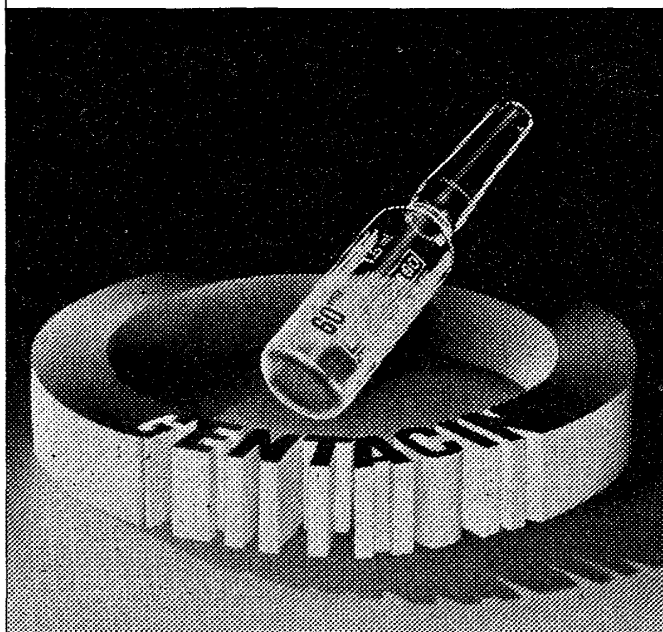
〔特別講演〕 透析療法の最近の進歩

千葉大学医学部第2外科 小 高 通 夫

透析療法の普及、発展は種々の面からみて大きな進歩

がみられる。とくに最近では分子量以上の毒性物質の除去を目的とした治療法が臨床に使用されるようになった。即ち限外濾過法、血液吸着法及び血漿交換法である。この3法について概説し、前2者とくに吸着法については我々の開発した慢性及び急性透析の臨床的意義を報告した。

ゲンタシンの適応菌、適応症は 巾広く認められています。



■適応症

本剤感性の緑膿菌、變形菌、セラチアによる右記感染症およびブドウ球菌、大腸菌、クレブシエラ、エンテロバクターのうち、カナマイシンを含む多剤耐性菌で、ゲンタマイシン感受性菌による右記感染症

敗血症、創傷・熱傷および手術後の二次感染、肺炎、腹膜炎、腎盂腎炎、膀胱炎、中耳炎

■用法・用量

通常、成人では硫酸ゲンタマイシンとして、1日80～120mg(力価)を2～3回に分割し、筋肉内注射する。小児では1回0.4～0.8mg(力価)/kg、1日2～3回筋肉内注射する。なお、年齢・症状により適宜増減する。
投与期間は7～10日とし、10日をこえないこと。

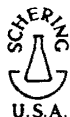
■包装・薬価

ゲンタシン注60mg(力価)/1.5ml	1.5ml×10A	1アンプル	¥1,227
ゲンタシン注40mg(力価)/ml	1ml×10A	1アンプル	¥842
ゲンタシン注10mg(力価)/ml	1ml×10A	1アンプル	¥264

※使用上の注意などについては、添付文書をご参照ください。

（製）要指 **ゲンタシン®** 注
〔日抗基 硫酸ゲンタマイシン注射液〕
60mg・40mg・10mg

製造・発売元 シオノキ製薬株式会社



アメリカ・シェリング
エッセクス日本株式会社

大阪市西区立売堀上通2丁目1番地(住友銀行立売堀ビル) 〒550 電話 06-532-3232(代表)

GM-24
0978KD